

結核

第四卷 第六號

大正十五年六月二十四日發行

原 著

肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

東京市療養所(所長田澤博士)

鈴木 佐 内

緒言

第一章 咯血ノ頻度

第一項 頻度ニ關スル一般的觀察

第二項 性別トノ關係

第三項 年齢トノ關係

第四項 季節トノ關係

第五項 時刻トノ關係

第六項 初期咯血ニ就テ

第二章 咯血ノ影響

緒言

- 第一項 體溫、脈搏數、呼吸數及ビ睡眠ニ及ボス影響
- 第二項 肺結核ノ經過ニ及ボス影響
- 第三項 咯血ニ因リ肺結核症狀ノ増悪セル者ノ體溫脈搏數及ビ呼吸數トノ關係
- 第四項 咯血死ニ就テ
- 第三章 咯血發現時直前ノ事項ニ就テ
- 總括

咯血ハ肺結核患者ノ諸症候中最モ意義多キモノ、一ナリ、患者ハ勿論其ノ周圍ノ者ヲシテ甚シキ不安ト恐怖トヲ感ゼシメ、又往々ニシテ肺結核其モノ、經過ニ大影響ヲ及ボシ、且ツ其ノ發現ノ狀タルヤ實ニ不規則ニシテ時ニハ非常ナル細

原著 鈴木 肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

五六一

心ノ注意ヲ拂フニモ拘ラズ之ヲ避ケ難ク、時ニハ亂暴極リ無キ生活中ニテモ之ヲ見ザル事有ル等、千差萬別ニシテ何人ト雖モ明確ニ之ヲ豫知スルコト能ハザルモノアリ、從テ又其ノ對策ニ就テモ吾人今日未ダ明確ナル所信ヲ有セザル等ノ點ヲ思フ時、咯血ニ關スル知見ノ更ニ豊富ナルヲ望マザルヲ得ザルナリ、然レドモ一度其ノ發現セラル、ヤ其ノ大小ヲ問ハズ常ニ患者ハ死ニ直面セルノ觀有ルノミナラズ一面ニ絶對安靜ヲ守リツ、有ルガ故ニ精細ナル檢索ヲ行フノ機會ヲ得ル事容易ナラズ、從テ其ノ誘因ニ就テモ正確ナル知見ヲ得ルニ難ク、其ノ處置ニ關シテモ每常自信アル事能ハザルナリ。

由來咯血ニ關スル文獻ハ歐米ニハ必ズシモ尠シトセザレドモ、其ノ大半ハ治療方面ニ關スルモノニシテ其他ノ研究及ビ觀察ニ屬スルモノハ其例多カラズ、而シテ我國ノ之ニ關スル報告ニ至リテハ甚ダ少クシカモ概テ歐米人ノ所報ニ基クモノニ係リ、本邦人ノ肺結核患者ニ就テノ統計的觀察ニ至リテハ殆ド其例ヲ見ズ、故ニ余ハ大正十年ヨリ同十四年ニ互ル滿五ケ年間ノ東京市療養所ニ於ケル肺結核患者ノ咯血ニ就キ統計的觀察ヲ企テタリ。

咯血ニ關スル統計的調査ニ當リテハ咯血ノ種類又ハ程度ヲ明示スルニ非ズンバ種々混同ヲ來シテ結論ヲ誤ラシムル事有ル可キガ故ニ、余ハ咯血ヲ臨牀上其ノ發現時機ニ依リ初期咯血、始發咯血、及ビ續發咯血ノ三種ニ分チテ調査セリ、初期咯血トハ肺結核發病ヲ示ス最初ノ徵候タリシ咯血ヲ云ヒ、始發咯血トハ一咯血群ノ最初ノモノヲ指シ、續發咯血トハ始發咯血ニ續キ起レルモノヲ呼ベリ。

統計ノ結果ハ未ダ必ズシモ満足トスベキ例數ニハ非ザレドモ多少タリトモ臨牀醫家日常ノ參考資料タルヲ得バ著者ノ幸トスル所ナリ。

第一章 咯血ノ頻度

第一項 頻度ニ關スル一般の觀察

咯血ノ頻度ニ關シテハ報告者ニヨリテ著シキ差違ヲ示セリ、Schroöder 一〇〇・〇%ノ間ニ有リト記載ス、

Condie 〓 二四・〇% Gerhart 〓 三〇・〇% Abraham 〓 三七・四% Gabrilovitch 〓 五五・〇% William 〓 七〇・〇%
Walsche 〓 七九・〇%ト報告ス、J. Sargo 〓 十年間ノ六三五四例ノ患者ニ於テ三八・〇%ハ既往症ニ咯血ヲ有シ、氏ノ療
養所ニテ治療中更ニ一一・〇%ヲ増加シ、都合四九・〇%トナレルヲ報告セリ。

諸家ノ報告ニ斯ク著シキ懸隔ヲ見ルハ其患者例及ビ治療方法等ノ相違ノ然ラシムル所ナリト稱セラル、然レドモ、余ハ
又觀察時期ノ相異ノ結果ニモ依ルナラント思考ス。

今余ガ成績ヲ述ベンニ余ノ患者例ハ其大多數ハ重症者ニシテ輕症ニ屬スル者ハ甚ダ少シ、之等ノ患者例六三八六名ノ中
咯血セル者ハ一〇三四名ニシテ一六・三%トナル、此ノ數ハ我ガ療養所ニテ療養中咯血セシ者ノ數ナリ、又我ガ療養所ニ
入院前既往ニ於テ咯血セシ者ノ率ハ調査患者七三七名ノ中二七八名ニテ即チ三七・七%ナリ、是恐ラク Condie 〓 三八・〇
%ニ相當スルモノナリ、又慢性肺結核ニテ死ニ至レルハ六三一名ニテ、生前既往症及ビ在所中咯血ハ勿論血痰ニ至ル迄
詳シク調査シ置キタル者ニ就キ彼等ガ如何ナル割合ニ咯血者ヲ有セシカヲ求ムルニ第一表ニ示スガ如ク五一・三%ニ當
リ、之レガ咯血例ノ最高率タル可キモノナリ。

要之ニ余ノ患者例ハ既往症ニ咯血ヲ有セシ者ハ三七・七%ニ當リ、死亡ニ至レル全經過ニ於テハ五一・三%ノ咯血率ヲ認
メタリ、故ニ我ガ療養所在所中ニ始メテ咯血セシ者ノ數ハ一三・六%ニ相當スベキナリ。

第二項 性別トノ關係

一般ニハ男性患者ハ女性患者ヨリ咯血者多數ナリト稱セラル、此ノ事實ハ主トシテ性別ニ因ル家庭的關係及ビ生活狀態
ノ相異ニ依テ來ル所ナラント言ハル、モ、又男女別ニ因ル咯血頻度ノ差違ハ其全經過ニ長短ノ差アルニモ依ルナラン。
Abraham, Wolff, Raiche 等ハ共ニ咯血ハ男子ニ多キモノナリトノ主張者ニシテ Louis 〓 全ク反對ニ女子ハ男子ヨリモ多
キモノナリト稱ス、Schreiber 〓 女性ハ男性ヨリ咯血少シト云フ。

余ノ成績ヲ見ルニ男性患者ニ在リテハ四三二〇名中咯血セル者ハ八〇七名ニシテ一八・七%ナリ、女性患者ハ二〇七六名
中二二八名ニテ一一・〇%ナリ、即チ余等ノ療養所ニテ咯血セシ者ニテ見ルニ男性ハ女性ヨリモ咯血スルコト多シ、又前項

第一表

分類事項	人数			百分率		
	男	女	計	男	女	計
ア痰及血痰アリシ者	261	63	324	55.4	39.4	51.3
アリシ者ノ痰及血痰アリシ者	101	30	131	21.4	18.8	20.6
共者ノ痰及血痰アリシ者	109	67	176	23.5	41.9	28.1
無カカリシ者						
總計	471	160	631	100.0	100.0	100.0

記載ノ肺結核ニテ死亡セル患者ノミノ咯血者率ハ此ヲ男女別ニナスニ第一表ニ掲グルガ如ク咯血ハ男子ニ多クシテ女子ニ少シ、男子五五・四%ニ對シテ女子ハ三九・四%ヲ示スヲ見ル、反對ニ全經過中咯血ノ一回モ無カリシ者ハ男子ハ四四・六%ナルニ女子ハ六〇・六%ノ多數ニ上レリ、次ニ全經過中ニ血痰ノミ有リシ者ハ男子二一・四%、女一八・八%ニシテ矢張り女子ノ低率ナルヲ示ス、而シテ咯血ハ勿論血痰スラ一回モ無カリシ者ハ男子二三・三%ナルニ女子ハ四一・九%ノ多數ニテ可成リ大ナル差ノ存スルヲ示スモノナリ。以上ハ余等ノ療養所入所後ニ於ケル成績ナルモ、然ラバ入所以前ノ咯血ニ於テハ如何ナル數字ヲ示スカラ見ルニ、七三七名中、男五二八名ニ對シ二二一名ノ咯血者アリ、女子ハ二〇九名ニ對シ五七名ニシテ、其ノ比ハ男子ハ四一・九%ナルニ女子ハ二七・三%ニテ女子ノ非常ニ少キヲ知ル、以上三項ヲ通ジ何レモ男性ハ女性ヨリ咯血者ノ可成リ高率ナルヲ認メシム。

第三項 年齢トノ關係

一般ニハ咯血ハ壯年期ノ者ニ多數ナルヲ報告セラル、Schroder ハ中年及ビ成年ノ者ニ多シト稱ス、又 Ratione ノ報告ヲ見ルニ

年齢別	男(%)		女(%)		計(%)
	一—一五歳	一五—二五歳	一—一五歳	一五—二五歳	
一—一五歳	一・四	四二・〇	七・一	六〇・〇	四・五
一五—二五歳	二・二	五三・八	二二・九	四七・八	二・二
二五—五〇歳	二・二	二二・九	二二・九	四七・八	二・二
五〇歳以上	二・二	二二・九	二二・九	四七・八	二・二

即チ一五歳以前ハ比較的少數ニシテ七歳以前ハ甚ダ稀ニシテ一五歳ヨリ五〇歳ノ者九三・〇%ヲ占ムト稱ス。

タリ、即チ咯血者ノ年齢別ト同様ニ在所患者數ヲ分類シ、第二表及ビ第四表ヲ得タリ、第三表ハ各々ノ例數ヲ表ハセル

原著 鈴木ニ肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

第三表 (患者數及咯血者數)

年齢別	患者數	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	計
9歳迄	患者數	20	60	190	270	180	720
10—14	患者數	250	232	543	743	493	2255
15—19	患者數	20320	22018	33329	44134	45643	1653144
20—24	患者數	28836	37161	40055	45894	51783	2034229
25—29	患者數	21626	25540	32546	34564	39885	1549261
30—34	患者數	15719	16926	19834	22238	25644	1002161
35—39	患者數	12215	14921	14924	15127	16231	734118
40—49	患者數	10214	14215	19528	19429	20631	832120
50—59	患者數	342	408	696	8911	10111	33338
60以上	患者數	80	150	260	335	266	11811
計	患者數	1158132	1400191	1768225	2034305	2193240	85531193

第四表 (患者數ニ對スル咯血者數ノ比)

年齢別	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	總計ノ比
9歳迄	0	0	0	0	0	0
10—14	0	9.0	5.6	4.5	6.1	4.9
15—19	9.9	8.2	8.7	7.7	9.4	8.7
20—24	12.3	16.4	13.8	20.5	16.5	16.2
25—29	12.0	15.1	14.2	18.6	21.4	16.8
30—34	12.0	15.4	17.2	17.1	17.1	16.1
35—39	12.2	14.1	16.1	17.5	19.1	16.1
40—49	13.7	10.6	14.4	15.0	17.0	14.4
50—59	5.6	20.0	8.7	12.4	10.9	11.4
60歳以上	0	0	15.2	16.7	9.3	

第二表

年齢	男(%)	女(%)	合計(%)
9歳迄	0	0	0
10—14	0.5	0	0
15—19	0.8	0.2	0.5
20—24	0.3	0.2	0.2
25—29	0.6	0.2	0.4
30—34	0.3	0.1	0.2
35—39	0.3	0.1	0.2
40—49	0.3	0.1	0.2
50—59	0.2	0.1	0.1
60歳以上	0.7	0.9	0.8

余ノ咯血例一〇三五名ヲ年齢別及性別ニナスニ第二表ノ如シ。此ノ表ヲ見ルニ二〇歳ヨリ三〇歳未滿ノ者大多數ヲ占メ、殆ド全數ノ半分ニ達ス、此ノ統計數ハ五年間ヲ一期間トシテ其ノ總數ニ就テ見タル結果ナルモ、若シ各年度ニ依リテ著シキ差違ヲ示ス事無キヤヲ探査セルニ、殆ド各年度トモ同様ノ傾向ヲ示スヲ見タリ、此所ニハ表ヲ省略セリ。上表ハ咯血者ヲ其ノ年齢別ニテ分類スル時ハ壯年期ニ多數ナル事ヲ示セルモノナリ、然レドモ元來肺結核ナル疾患ハ壯年者ニ多クシテ余等ノ療養所ニ在ル者モ大多數ハ壯年期ニ屬ス、故ニ咯血者モ亦壯年者ニ多數ナル事ハ當然ナルベキヲ以テ、余ハ更ニ各年齢ニ就キ患者數ト咯血者ノ率ヲ精査シ

モノニシテ第四表ハ除シタル數ノ百倍ニテ百人ニ付キ何人ノ割合ナルカヲ表ハセルモノナリ。

各年齡ノ數ハ略々同様ナル趨勢ヲ示ス、今其ノ總計ノ比ヲ見ルニ二五歳ヨリ二九歳迄ノ者最高位ニシテ、次ハ順次ニ二〇歳ヨリ二四歳迄ノモノ三〇歳ヨリ三四歳迄ノモノ、三五歳ヨリ三九歳迄ノモノナル事ヲ示セリ、然レドモ此ノ四部類相互ノ差異ハ僅少ニ過ギズシテ殆ド同率ト見ラル、ナリ、次ハ四〇歳ヨリ四九歳ノ者ニシテ僅カニ低位ニアリ、次ハ五〇歳ヨリ五九歳ノモノニテ、六〇歳以上ノ者之レニ次グ、一五歳ヨリ一九歳ノモノ更ニ低位ニアリテ一〇歳ヨリ一四歳ノモノハ最下位ニ在リ、一〇歳未満ノ者ニ於テハ咯血ヲ見ザリキ。

此所ニ於テ以上ノ成績ヲ顧ミルニ咯血ナルモノハ各年齡ヲ通ジ同比率ニ起ルモノニ非ザル事ヲ知ル、例ヘバ一五歳ヨリ一九歳ノ間ノ者ハ第三表ノ示ス如ク患者數ヨリ見ル時ハ第二位ニ在ルヲ以テ同率ニ起ルモノトスレバ咯血者數モ第二位ニ在ル可キナリ、然ルニ實際ハ第四位ニアリテ咯血者ノ比率ハ第八位ニ下リ最低ヨリ三番目ニ存ス、又二〇歳ヨリ二九歳迄ノ者ハ咯血者數ヨリ見ル時ハ最高位ニシテ殆ド咯血者全數ノ半分ヲ占ムルモ其ノ咯血ヲ起ス率ヨリ見ル時ハ三〇歳ヨリ三九歳迄ノ者ト同様ノ程度ニアリ。斯クテ二〇歳ヨリ四〇歳未満ノ各部類ハ殆ド同率ニテ最高位ニアリ、次ハ高年齢ニシテ、然ル後ニ二〇歳未満ノ若年者來ル、此ノ結果ハ只單ニ生活上ノ相違ノ然ラシムル所ナリト見ル可キカ、將又年齢ノ相違ガ咯血病理ニ何等カノ差異有ル事ヲ示ス事實ナルヤノ解決ハ興味有ル問題タルベシ。

余ハ又前記第一表ノ肺結核ニテ死亡セル六三一名ヲ咯血ノ有無別ニ分チ、更ニ各々ヲ死亡時ノ年齢ニテ分類セルニ咯血ヲ有セシ者ハ咯血無カリシ者ニ比シ一般ニ少シク年齢高キモノニ多數ナリシ如シ。

第四項 季節トノ關係

Tecon 及ビ Sillig 等ハ春秋ノ季節ニ多ク起ルト稱シ、或ル者ハ冬期ニ多シト稱ス、Theodor Jansen ハ一年三ヶ月間ノ觀察ニ依リ二月、三月、九月、十月、十一月、十二月、一月、三月ニ多ク咯血セルヲ見タリト報告ス。原氏ハ關西地方ニハ四月下旬ヨリ六月ニ互リテ統計的ニ咯血多シト稱ス、又松田氏ハ第一回日本結核病學會ニテ濱寺療養所ニ於ケル氣象的觀察ヨリ咯血ハ六月、七月、五月、八月、九月、四月、十月、十一月、十二月、一月、二月、三月ノ順位ニテ其ノ頻度低減ス

ト報告セリ。

然レドモ此ノ月別ニヨル頻度ヲ求ムルニ調査方法ニヨリテ可成リノ差違ヲ見ルモノナリ、即チ始發喀血ノミノ數ニ因ルカ、或ハ續發喀血モ全部入ル、カニテ其ノ數ハ甚シク差違ヲ示スモノナリ、始發喀血ノ多キ月必ズシモ續發喀血多キモノニ非ザルナリ。

余ハ先ヅ始發喀血ハ勿論續發喀血ノ個々ノモノヲ算入シテ計算セルモノヲ比較セリ、然レドモ續發喀血ニテモ殆ド連續シ十數分毎ニ繰リ返ヘサレタルモノハ別々ニ算入セズシテ、少ナクトモ數十分以上ノ間隔ノ後ニ再來セルモノヲ別ニ一回トシテ見タリ、總計ハ三四五〇例ニシテ喀血ノ實數ヲ各月別ニ從テ分テバ、六月、八月、三月、十一月、七月、四月、十月、十二月、九月、五月、二月、一月ノ順位ニテ漸次低減セリ、然レドモ我が療養所ノ收容力ハ漸次擴張セラレ在所患者數モ次第ニ増加セルヲ以テ各月ノ在所患者全數ニ對スル喀血例數ノ比率ヲ求ムルニ其ノ率ハ六月、三月、八月、四月、二月、一月、七月、十一月、五月、十月、九月、十二月ノ順位ニテ漸次降下ス、故ニ六月、三月、八月等ニ頻發セルナリ。

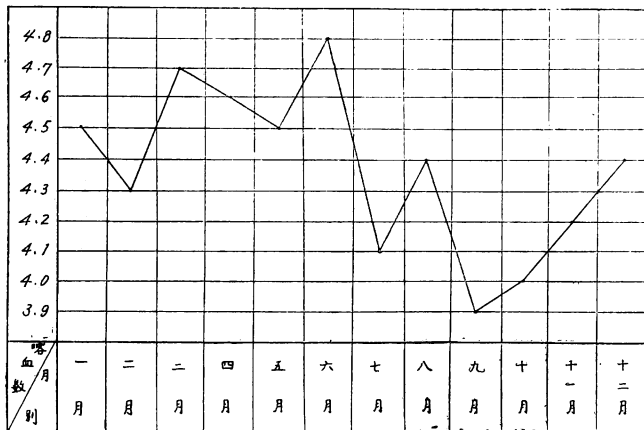
又余ハ喀血例數ヲ表ハス單位ニ人ト日トヲ用ヒタリ、即チ同一人ガ一日中ニ數回喀血セルモ、之レハ一回トナシ、翌日ニモ喀血セル時ニ二回トナセル如シ、此ノ總數ハ二七七八例トナル、之レヲ月別ニヨリ多數ノモノヨリ配列スルニ六月、十一月、四月、三月、七月、十月、八月、九月、五月、十二月、一月、二月ナリ、又之レヲ各月在所患者數ニテ除セル比率ノ順位ヲ見ルニ、六月、三月、四月、一月、二月、七月、十一月、八月、五月、九月、十月、十二月トナルナリ。而シテ次ニ喀血例數ノ單位トシテ只始發喀血ノミヲ採用シ、續發喀血ヲ全ク除外セル方法ニヨリ頻度ヲ求メタリ、此ノ始發喀血總數ハ一六五二例ニシテ之レヲ月別ニヨリ頻發セル月ヨリ配列スルニ、十二月、六月、五月、三月、十一月、四月、八月、十月、七月、九月、一月、二月ノ順位トナル、更ニ之レヲ各月在所患者數ニテ除セル比率ハ六月、三月、四月、五月、一月、八月、十二月、二月、十一月、七月、十月、九月ノ順序トナリ第五表之レヲ示ス。

以上三種類ノ單位ニ依ル月別喀血例ノ分類ハ何レヲ以テ最モ合理的ニ頻度ヲ論ゼシムルモノトナスベキカラ案ズルニ、

第二ノ方法ハ一定ノ根據有ルニ非ズシテ當ヲ得ザルナリ、又第一法ハ始發咯血及ビ續發咯血ヲ同様ニ取り扱ヒタルヲ以

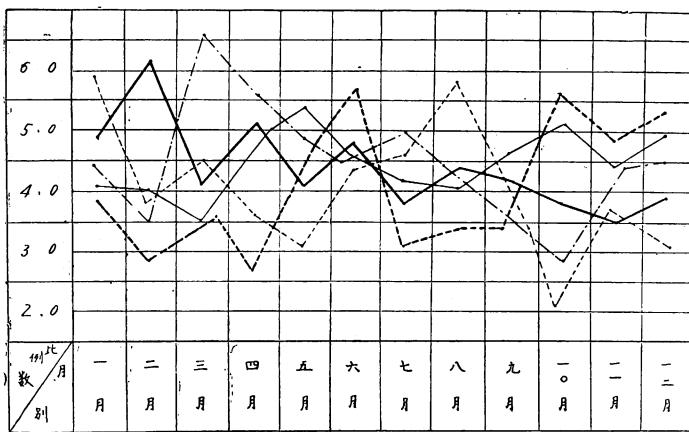
第五表

(月別分類)



第六表

各年度月別分類(始發咯血一一二〇例)



- 大正十四年
- 大正十三年
- · — 大正十二年
- · · · 大正十一年
- · · · · 大正十年

テ同一條件ヲ具フル咯血頻度トシテハ論ジ難シ、故ニ月別ニ依ル咯血例多少ノ頻度ヲ見ルニハ第三ノ始發咯血例數ヲ以テナスヲ至當トセン、今此ノ結果ニ就テ論旨ヲ進メシメ第五表ノ曲線ノ示スガ如クニシテ、三月ヨリ六月ニ互リテ比較的高位ナリ、而シテ六月ハ前記第一、第二ノ統計ニ依ルモ同ジク最高位ナリシヲ参照シテ此ノ季節ニ頻度ノ大ナルハ或

ハ一定ノ事實トシテ認ムルヲ得ンカ、次ハ十二月及ビ一月ノ候ニシテ七月ヨリ十一月ノ間ニハ最モ少シ、然レドモ實際ハ此ノ間ニ多少ノ不規則ナル昇降ノ存スル有リテ定型的曲線トシテ斷言スル事ハ不可能ナリ、尙又此ノ比率ヲ各曆年ニテ別々ニ表ハスニ、第六表ノ如ク雜然タル昇降ヲ呈シ月別分類ニヨリ季節ト咯血頻度トノ關係ニ就キ斷定ヲ下スニ憚ラシムルモノアリ、尙ホ又第六表ニ於テ注意スベキハ大正十二年九月一日ノ大震災後ノ頻度ニシテ、特ニ高率ナリシ如キ狀況ヲ見ズ、九月、十月ノ如キ反ツテ低率ナリシガ如キハ興味アル事柄トスベシ。

以上余ハ季節影響ヲ見ル可ク咯血例ヲ月別ニ分類シ批判セルモ此ノ季節關係ニ於テハ勿論其ノ季節ノ氣象關係ヲ主要事項トス、氣象ノ因子ニ就テハ甚ダ種々ナル事項ヲ列舉セラル、今諸家ガ氣象的變化トシテ咯血ニ關聯ヲ求ムル事項ヲ舉グルニ第一ハ氣壓、濕度、氣溫ニシテ、其他風ノ方向、天氣ノ晴雨、空中電氣張力等モ舉ゲラル、是等ノ因子ニ就テハ直接ニ咯血ヲ誘起セシムルコト無クトモ間接ニ身體的變化ヲ起サシメテ咯血ヲ發起セシムルモノナリト稱ス、Jansonハ此ノ關係ヲ詳述シ、Sunder モ亦咯血ヲ起シ易キ日ニ就テ記載セリ、余ハ未ダ是等影響有リト稱セラル、事項ニ關シテ精細ニ研究セザルモ大正十年初メヨリ同十四年末ニ至ル間ニテ日々起レル始發咯血及ビ續發咯血例數ヲ見タルニ一日ニ始發咯血例ハ其ノ六例ニ及ビタル日ヲ最多トシ、反對ニ一例モ無キ日モ存セリ、而シテ此ノ始發咯血例ノ多カリシ日ニ就キ更ニ其ノ起リタル時刻ヲ調査セルニ種々雜多ニシテ同時刻或ハ近接セル時刻ニ起リタル例ハ極メテ稀ナリ。之レニ依リテ案ズル時ハ氣象ノ劇變ニテ一時ニ多數患者ニ突然濤波的ニ咯血ノ襲來スルガ如キ事ハ思考シ得ズ、然レドモ數日間ニ互リテ咯血例頻繁ナルガ如キ時期ノ存セル事ハ事實ナリ、サレド是等ガ果シテ氣象的因子ノ然ラシムル所ナルヤ否ヤハ此所ニ斷言シ得ズ。

第五項 時刻トノ關係

咯血ノ起ル時刻ニ就テ論ズル者ハ甚ダ少シ、然レドモ或者ハ朝ニ多ク起ルト稱シ、又 S. Janssen ハ咯血ノ起レル身體狀況ノ分類ニ際シ睡眠時間内ニ比較的多ク起レル事ヲ記載セリ、此ノ事ハ第三章ニテ再說セントス。

余ハ三〇五四例ノ時刻ノ明カナル始發咯血及ビ續發咯血ヲ其ノ起レル時刻ニヨリ分類セルニ第七表ノ如シ、而シテ第八

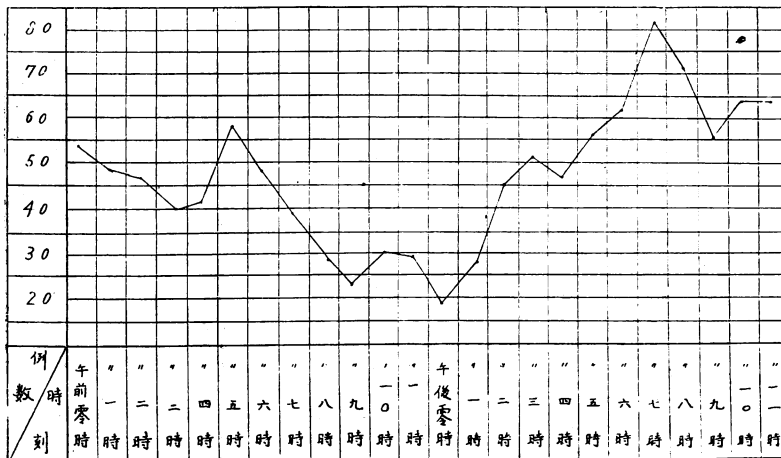
第八表
(始發及續發咯血時刻分類)

時刻	咯血例數	%	}	%		
午前 6時	48	4.3			}	17.7
” 7時	39	3.5				
” 8時	28	2.5				
” 9時	23	2.1				
” 10時	30	2.7				
” 11時	29	2.6				
午後 0時	19	1.7	}	39.7		
” 1時	28	2.5				
” 2時	45	4.0				
” 3時	51	4.6				
” 4時	47	4.2				
” 5時	56	5.0	}	22.0		
” 6時	62	5.5				
” 7時	82	7.3	}	19.1		
” 8時	71	6.3				
” 9時	55	4.9				
” 10時	59	5.2	}	15.3		
” 11時	59	5.2				
午前 0時	54	4.8	}	60.3		
” 1時	48	4.3				
” 2時	47	4.2				
” 3時	40	3.6				
” 4時	42	3.8				
” 5時	58	5.2	}	25.9		
” 6時	42	3.8				
總數	1120					

第七表
(始發及續發咯血時刻分類)

時刻	咯血例數	%	}	%		
午前 6時	125	4.1			}	9.1
” 7時	77	2.5				
” 8時	76	2.5				
” 9時	56	1.8				
” 10時	112	3.7				
” 11時	101	3.3				
午後 0時	40	1.3	}	41.2		
” 1時	108	3.5				
” 2時	147	4.8				
” 3時	142	4.6				
” 4時	130	4.3				
” 5時	146	4.8	}	23.3		
” 6時	175	5.7				
” 7時	208	6.8	}	17.6		
” 8時	155	5.1				
” 9時	122	4.0				
” 10時	121	4.0	}	14.7		
” 11時	206	6.7				
午前 0時	134	4.4	}	58.8		
” 1時	149	4.9				
” 2時	163	5.3				
” 3時	115	3.8				
” 4時	116	3.8				
” 5時	130	4.3	}	26.5		
” 6時	116	3.8				
總數	3054					

第九表 始發咯血發現時刻分類表



表ハ始發咯血例ノミノ一一〇例ニ就テ時刻分類ヲナセル成績ナリ。余等ノ療養所ニテ療養中ノ患者ノ日常生活ノ明ニ規定セラレタルモノハ食事時間ニシテ、起牀時間モ大體定マレルモ重輕症ニテ多少ノ差異アリ、食事ハ朝ハ七時三十分、

原著 鈴木ニ肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

晝ハ十一時半、夕方ハ四時半ヨリ五時ノ間ニ規定シアリ、就寢ハ午後九時ト定メラル、モ實際ニハ冬期ハ、之レヨリ以前ナル事多ク、夏期ハ之レヨリ多少遅ル、事アリ、又安靜及ビ運動時間ハ患者ニ依リテ差異アリテ一樣ナラズ。

而シテ右表ニテ午前零時ノ欄ニ記セル數ハ午前零時ヨリ一時迄ノ間ニ起リシ咯血例數ニシテ、第九表ハ第八表ノ始發咯血例數ヲ曲線ニテ示セルモノナリ。

今表示ノ狀況ヲ見ルニ各時間ニテ大小ノ不規則ノ昇降ヲ示スモ、大體ノ趨勢ハ上表何レノ分類モ同様ナリ、殊ニ一晝夜ヲ四區分スルモ、又晝夜ノ二大別ニナスモ共ニ類似ノ數ヲ示スヲ見タリ、即チ正午近クニ最も少ナクシテ晝過ぎヨリ漸次多クナリ、午後七時頃ヲ最多トシ、後少シク減少スルモ深夜ト雖モ尙ホ且ツ相當ニ多クシテ曉ノ頃又幾分増加シ其後ハ漸次減少シテ正午ニ至ル。四區分ニテハ午後六時ヨリ同十二時迄最多ニテ、次ハ午前零時ヨリ同六時迄ノ間ニシテ午後零時ヨリ同六時迄ノ間之レニ次ギ、午前六時ヨリ同十二時迄ノ間最少位ニ在リ、更ニ二大別ニシテ觀察スルニ第七表即チ始發咯血及續發咯血ノ分類ニ於テハ午前六時ヨリ午後六時ノ間、四一・二一%、午後六時ヨリ翌朝六時迄ノ間五八・八%ニ當リ、第八表始發咯血例ノミニテハ三九・七%ニ對スル六〇・三%ニテ何レモ後者即チ夜間ニ多ク其ノ比ハ大體ニ於テ二ニ對スル三ノ割合ナリ。

尙ホ又此ノ表示ノ成績ヲ食事時間ニ關聯シテ考察スルニ一定ノ昇降狀態ヲ認ムル能ハズ、又發熱關係ニ比較スルニ一般ニハ發熱ハ午後ノ晝間ニ最高位ヲ示ス者大多數ナルニ、之レニ一致シ咯血増減スル狀態ヲモ示サズ、又療養生活ニ於テモ比較的活動時間ノ多キハ晝間ナルニ此ノ間ニ咯血ハ少クシテ安靜休養時間タル夜間ニ多キ事ハ、身體運動ノ咯血ニ對シ直接誘因トシテ作用スルコトノ少ナキヲ示スモノニ非ザルカ。以上咯血例ノ時刻分類ノ結果ハ咯血誘因検査ニ於テテイニ顧慮ヲ要スルモノ、一トシテ興味有ル事實ナリ。

第六項 初期咯血ニ就テ

此所ニ余ノ述ベントスル初期咯血ナルモノハ所謂 Initial Haemoptoe ニシテ始發咯血中ノ最初ノモノニシテ、然モ肺結核發病時ノ徵候タリシモノニテ全ク健康ナル狀態ニ突然發現セル咯血ヲ云フナリ。此ノ初期咯血ノ發生病理ニ關シテハ諸

家各相違ノ説ヲ述ブル有ルモ、余ハ今其ノ病理ニハ論及セズ唯其ノ頻度ニ就キ少シク述ベシ。
此ノ頻度ニ關スル文獻ハ甚ダ少シ、余ノ検査モ未ダ多數例ニ達セザルモ今日迄ニ得タルモノ左ノ如シ、患者例七三七名
中初期咯血ヲ以テ發病セル者ハ一九名ニテ二・六%ナリ。

患者數	初期咯血例	%
男子	五四八	一四
女子	二〇九	五
計	七三七	一九

男女例ニテハ上記ノ如ク大差ナシ、而シテ此ノ一九名ハ其ノ發現以前ハ勿論直前迄全ク健全ナリシ者ノミナリ、而シテ以前肋膜炎ノ如キニ罹リ全治セル者ガ突然上記ノ如ク咯血セル例ハ除外セリ、以前肋膜炎ト稱セラレタル者モ果シテ肋膜炎ノミナリシヤ否ヤ疑問ナルヲ以テナリ、又斯ク突然咯血セル數日或ハ十數日前ヨリ胃腸病、或ハ寒冒等ノ疾患ニ罹リ居リタル者モ除外セリ、醫師ガ診斷ヲ患者ニ祕スル場合屢々有ルヲ以テナリ、然レドモ是等余ノ除外セル内ニハ其ノ診斷ニ誤リナクシテ實際ニ初期咯血ナリシモノモ存セン、今肋膜炎ノ既往症ヲ有スル者ノ數ヲ追加スル時ハ四名ヲ増加シテ三・一%トナル、尙又疑問トセル後者即チ胃腸病、寒冒等ヲモ加フル時ニハ更ニ一三名ヲ増加シ三六名即チ四・九%トナル。

又此ノ初期咯血者ノ年齢ヲ上記一九名及ビ三六名ノ兩者ニ就キ咯血當時ノ年齢ニテ調査セルニ一六歳ヨリ六〇歳ノ間ニ在リテ其中二〇歳乃至三〇歳ニ起レル者大多數ヲ示セリ其他初期咯血發現ノ月別及ビ時刻ヲ追求セルモ著明ナル關係ヲ見出シ得ザリキ。

第二章 咯血ノ影響

第一項 體溫、脈數、呼吸數及ビ睡眠ニ及ボス影響

咯血直後ノ影響ハ著シキモノ有ルモ是等ハ危急ノ際ナルヲ以テ詳シク検査スルコト困難ナレドモ、少シク時間ヲ經ル時

ハ多少落付クヲ以テ是等ノ變化ヲ詳記スルコトヲ得、サレド窒息死ニ至ル者ノ如キハ如何トモスル能ハズ、此ノ咯血死ニ關シテハ後篇ニ於テ述ブル所アリ、又咯血後短時間内ニ死亡セル者有レドモ是等モ觀察時間短クシテ咯血ノ影響ヲ詳述スルコト困難ナルヲ以テ、此所ニ述ブル病例ヨリ除外セリ。故ニ此ノ統計ニ於ケル患者例ハ咯血後少ナクモ一日以上生存セルモノ、ミナリ、此ノ咯血例ノ單位ハ始發咯血及ビ續發咯血ヲ合セタルモノニシテ一連續ノ咯血群ヲ一例トシテ見タルモノナリ、一旦全ク中止シテ少クモ十數日以上ノ後復タ發現セル咯血ハ之ヲ別ノ一例トセリ、而シテ是等ノ例ガ溫度表及ビ病牀日誌ニ如何ナル變化ヲ來セルカヲ精細ニ見タル結果ニシテ不確實ナル例ハ除外セリ、今月迄ニ集メ得タル總例數ハ一二五例ニシテ男子一〇三〇例、女子二二五例ナリ、此ノ患者數ハ七〇〇名ニシテ男子五四八名女子一五二名ナリ。影響調査ノ分類方法ハ第八表ノ式ニ從ヒタリ、其時間的關係ハ始發咯血ヨリ見タルモノナリ、第十表ニハ體溫、脈搏數及呼吸數ヲ一括シテ記載シ、唯男女別、百分數及總例數ノミヲ記載セリ、其例數ヲ各々列擧スル事ハ煩雜ナルヲ以テナリ、第十表ニ掲ゲタル各項ハ次ノ標準ニ從ヘルモノナリ。

A 「少シク上昇セルモノ」ハ體溫ハ一〇度以下ノ上昇ナリ、脈數ハ二〇以下ノ増加セルモノ、呼吸數ハ一〇以下ノ增多ヲ來セル例ナリ、是等ノ比較ハ勿論數日前ニ比シテノコトナリ。

B 「可成り上昇セルモノ」ハ體溫ハ一〇度ヨリ一・五度ノ範圍ノ上昇、脈數ハ二〇ヨリ三〇ノ増加、呼吸數ハ一〇ヨリ一五以内ノ增多ヲナセル例ナリ。

C 「著シク上昇セルモノ」ハ體溫ハ一・五度以上上昇セルモノ、脈數ハ三〇以上、呼吸數ハ一五以上增多セルモノナリ。

D 「不變」トハ全ク變化無カリシカ、或ハ極ク僅少ノ變化アリシ例ニシテ少シク疑ハシキモノハ「少シク變化アリシモノ」ニ編入セリ。

E 「漸次上昇セルモノ」ハ咯血後次第ニ上昇ノ傾向ヲ示セルモノナリ。

F 「一時上昇セルモノ」、咯血後數日或ハ十數日位ハ上昇セルモ後ニ全ク舊位ニ復セルモノヲ云フ。

G 「後上昇セルモノ」トハ咯血後一時變化ハ無カリシモノ一二日或ハ數日後ヨリ上昇セルモノナリ。

H 「後一時上昇セルモノ」之レ果シテ咯血ニ起因セルモノナリヤ否ヤ疑問ナルモ影響ヲ嚴密ニ見ルタメ悉ク算入セリ。

I 「下降セルモノ」諸項ト反對ニ下降ヲ示セルモノニシテ其程度ハ前記各項ト同一標準ニ依レリ。

表ニ就テ見ラル、體溫、脈搏、呼吸共ニ大多數ハ「不變」ノ部ニ屬ス、而シテ此ノ「不變」ナルモノハ呼吸數ニ多クシテ體溫

第十表

分類事項	體 溫			脈 數			呼 吸 數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
不變ナルモノ	53.1	50.3	53.8	55.9	56.0	55.9	64.6	71.2	66.1
上昇セルモノ	15.4	13.8	15.1	15.7	15.5	15.6	17.1	12.9	16.3
少シ上昇セルモノ	6.4	9.8	7.0	7.0	9.8	7.5	11.7	10.7	11.6
可成り上昇セルモノ	4.3	3.1	4.1	4.1	4.4	4.2	3.7	2.2	3.4
漸次上昇セルモノ	0.6		0.5	0.8		0.6	0.6		0.4
著シク上昇セルモノ	4.1	0.9	3.5	3.8	1.3	3.3	1.1		0.9
一時上昇セルモノ	15.7	14.6	15.4	17.9	15.6	17.4	13.7	11.1	13.2
一時少シ上昇セルモノ	8.1	8.4	8.1	8.3	11.6	8.8	10.9	9.8	10.7
一時可成り上昇セルモノ	4.1	4.9	4.2	5.6	3.1	5.2	1.9	1.3	1.8
一時著シク上昇セルモノ	3.5	1.3	3.1	4.0	0.9	3.4	0.9		0.7
後上昇セルモノ	5.9	13.3	7.1	3.2	8.0	4.0	1.9	3.5	2.1
後少シ上昇セルモノ	2.3	4.4	2.7	1.7	0.9	1.6	0.8	1.3	0.9
後可成り上昇セルモノ	1.1	1.8	1.2	0.1		0.1	0.3	0.4	0.3
後著シク上昇セルモノ	0.9	2.2	1.1		0.4	0.1	0.2		0.2
後一時少シ上昇セルモノ	0.4	2.7	0.8	0.4	0.9	0.4	0.5	0.9	0.5
後一時可成り上昇セルモノ	0.7	1.8	0.9	0.6	4.0	1.2	0.1	0.9	0.2
後一時著シク上昇セルモノ	0.5	0.4	0.4	0.4	1.8	0.6			
下降セルモノ	9.9	8.0	8.6	7.3	4.9	6.9	2.7	1.3	2.3
少シ下降セルモノ	4.0	2.2	3.7	2.8	0.9	2.5	1.6	0.9	1.4
可成り下降セルモノ	0.6	0.9	0.6						
著シク下降セルモノ	0.8		0.6				0.1		0.1
一時少シ下降セルモノ	2.8	3.1	2.1	2.3	2.7	2.4	0.6		0.4
一時可成り下降セルモノ	0.3		0.2	0.3		0.2			
一時下降後以前ヨリモ上昇セルモノ	0.9	0.9	0.9	1.7	0.4	1.5	0.2		0.2
後下降セルモノ	0.5	0.9	0.5	0.2	0.9	0.3	0.2	0.4	0.2
總 例 數	1030	225	1255	1030	225	1255	1030	225	1255

原 著 鈴木ハ肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

要之ニ體溫ハ過半數ハ不變狀態ヲ維持スルモノニシテ、二〇・〇%ニ上昇ヲ見、一・五%ハ一時多少ノ上昇ヲ示セドモ後舊位ニ復ス、又約一〇・〇%ニ於テ下降スル狀態ヲ認メシム、脈數ハ不變ナルモノ過半數ナリ、而シテ二〇・〇%弱ハ上

ニ少ク脈數ハ中間ニ在リ、即チ體溫ハ一般的ニハ最モ多ク變化ヲ受クルモノナル事ヲ示ス但シ咯血直後ノコトニ非ザルハ前ニ述ベタルガ如シ「一時上昇セルモノ」ハ呼吸數ノ變化ニ於テ其ノ例數少シク低位ナルモ前記ノ如ク直後ノ變化ニ非ザルヲ以テ然ラン、「後上昇セルモノ」ハ體溫ニ多ク呼吸數ニ少ナクシテ脈數中位ニアリ、「下降セルモノ」ハ體溫及ビ脈數ニ多クシテ呼吸數ニ少シ。

第十表

分類事項	回 數			百 分 率		
	男	女	計	男	女	合計
不變ナリシモノ	758	159	917	73.6	70.5	73.0
不長トナルモノ	198	50	248	19.1	22.3	19.8
少シク不長トナレルモノ	125	22	147	12.0	9.8	11.7
可成リ不長トナレルモノ	50	20	70	4.9	8.9	5.6
不眠トナレルモノ	23	8	31	2.2	3.6	2.5
一時不長トナレルモノ	59	14	73	5.8	6.3	5.8
一時少シ不長トナレルモノ	38	8	46	3.7	3.6	3.7
一時可成リ不長トナレルモノ	16	6	22	1.6	2.7	1.7
一時不眠トナレルモノ	5	0	5	0.5	0	0.4
良好トナレルモノ	15	2	17	1.5	0.9	1.4
少シ良好トナレルモノ	14	2	16	1.4	0.9	1.3
可成リ良好トナレルモノ	1	0	1	0.1	0	0.1
總 計	1030	225	1255	100.0	100.0	100.0

原著 鈴木ト肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

昇ヲ示シ、一七・〇%ハ一時増昇ヲ見、約七・〇%ニ於テ減少ヲ認ム。呼吸數ハ六六・〇%ハ不變狀態ニ陥リ、約一五・〇%ハ増昇ヲ示シ略々一三・〇%ハ一時増昇ヲ認メシム、而シテ減少ヲ示スモノハ僅ニ約二・〇%ニ過ぎズ。睡眠ニ及ボス影響

咯血ハ元來患者ヲシテ最も多く不安ヲ感ゼシムルモノニシテ、患者ガ咯血中神經質トナルハ當然ノ事ナリ、故ニ睡眠關係モ可成リ影響ヲ蒙ルモノト察セラル、睡眠淺クシテ興奮シ咯血ノ再襲ヲ恐レテ、強ヒテ眠ラザル患者モ屢々見ラル所ナリ、故ニ實地醫家トシテハ咯血後患者ノ睡眠關係ニ就キ願慮ヲ用フルコトハ必要ノ件ナリ。

睡眠關係ガ咯血後一般的ニ如何ニ影響セラル、カヲ知ラント欲シテ第九表ノ如ク調査シ分類セリ、此ノ調査例數ハ前記病例ト同一ノ患者ニシテ分類事項ハ表ニ示セル如クナルモ其程度ニ關シ少シク説明セン、我療養所ニ於テハ睡眠程度ヲ表ハスニ卅十一ノ記號ヲ用ヒ、漸次ノ睡眠障礙ノ大ナルヲ示セリ、一ヲ最も高度ノ不眠トナス。

A 「不變ナリシモノ」ハ睡眠狀態始テ以前ト變リナカリシモノヲ云フ。
B 「少シク不長トナレルモノ」ハ卅ノ十トナレルモノ、及卅ノ十トナレル例ナリ。

C 「可成リ不長トナレルモノ」ハ卅ノ十トナレルモノナリ、

D 「不眠トナレルモノ」ハ一ニナレルモノヲ云フ。

E 良好ノ條項ニテモ此ノ關係ハ同様ニシテ唯反對トナルノミナリ。

此ノ結果ハ矢張り「不變」ナルモ多數ニシテ、七三・〇%ヲ占ム、而シテ約二〇・〇%ハ多少ニ拘ラズ不良トナレルモノナリ、一時不良ノ徵ヲ示セルモノハ約六・〇%ニシテ反ツテ良

好トナレルモノモ一・四％存セリ、即チ咯血後ト雖モ睡眠關係ニハ常ニ惡影響有ルモノニ非ズシテ、多少ニ拘ラズ不良状態ヲ來セルモノハ一時的ニモセヨ全數ノ約四分ノ一ヲ示セシニ過ギズ。

第二項 經過ニ及ボス影響

前項ニ述ベタル咯血例ガ豫後及轉歸ニ於テ表ハシタル結果ヲ此故ニ綜合セルモノナリ、故ニ人數ヨリ見タルニ非ズシテ上記ノ如キ咯血例數ヨリ見タルモノナリ、此所ニ増惡或ハ良好ノ判定材料トシテ顧ミタルモノハ胸部所見ニ非ズシテ前項ノ體溫、脈數、呼吸數及ビ睡眠ノ關係、其他咳嗽、咯痰、盜汗、惡寒及ビ食慾等ノ増減或ハ消失等ニシテ、全症狀

ニヨルモノニ非ザルナリ、以上ノ諸項ガ一般的ニ不良トナリシモノヲ増惡ト看做シ、又如何ナル方面ヨリ見ルモ良クナレルモノヲ良好トセリ。一時症狀ノ増惡セルモノモ間モナク舊位ニ復セルモノハ増惡ノ部ニ算入セズ不變トセリ。

表示ノ結果ヲ見ルニ八二・三％ハ殆ド不變ナリ、翌日ヨリ十日以内ニ死亡セル例ハ七・二％ニシテ十日以後ニ死亡セル者及ビ一般状態ノ増惡セルモノハ九・六％ナリ、而シテ咯血後良好トナレルモノハ一・〇％ナリ、然レドモ此ノ良好ナルモノ、判定ハ各方面ヨリ見テ確ニ良好ナリシ例ノミナルヲ以テ少シク嚴格ニ過グルモノ、如シ、故ニ實際ニハ此ノ數ヨリ多キモノナラン。

要之ニ始發咯血例ノ八〇・〇％強ハ後ノ經過ニ影響ヲ與ヘザルモノノ如シ、而シテ前述ノ如ク、咯血死及ビ其ノ日ニ死亡セルモノハ増惡死亡ノ調査ニ除外セルヲ以テ、前記死亡者中ニ含まレズ、依ツテ是等ヲ包含スル實際ノ増惡數及ビ死亡數ハ前記ノ數ヨリ多シト

第十 二 表

分類事項	回 數			百 分 率		
	男	女	計	男	女	合計數
増惡セシモノ	101	19	120	9.9	8.4	9.6
少シ増惡セシモノ	85	14	99	8.3	6.2	7.9
可成リ増惡セシモノ	16	5	21	1.6	2.2	1.7
後日死亡セシモノ	76	13	89	7.3	5.8	7.1
翌日死セルモノ	25	6	31	2.4	2.7	2.5
3日—5日內ニ死亡セルモノ	28	6	34	2.7	2.7	2.7
6日—10日內ニ死セルモノ	23	1	24	2.2	0.4	1.9
良好ナリシト思ハルモノ	11	1	12	1.1	0.4	1.0
不變ナリシモノ	842	192	1034	81.7	85.4	82.3
總 計	1030	225	1255	100.0	100.0	100.0

第 十 三 表

分 類 事 項	體 溫			脈 數			呼 吸 數		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
不變ナリシモノ	19.8	12.5	18.6	14.9	18.8	14.9	17.5	18.8	17.7
増昇セシモノ	50.3	59.3	51.7	64.0	78.1	65.7	68.9	65.4	68.8
少シ増昇セシモノ	15.8	18.8	16.3	23.7	28.1	24.0	38.6	43.8	39.9
可成り増昇セシモノ	15.3	31.1	17.7	19.4	37.5	22.1	16.6	21.6	17.3
漸次増昇セシモノ	1.7		1.4	2.8		2.4	2.8		2.4
著シク増昇セシモノ	17.5	9.4	16.3	18.1	12.5	17.2	10.9		9.2
一時増昇セシモノ	8.3		7.2	7.3		6.3	6.7	6.2	6.3
一時少シ増昇セシモノ	1.0		1.0	1.1		1.0	1.1	3.1	1.4
一時可成り増昇セルモノ	2.8		2.4	2.8		2.4	5.6	3.1	4.9
一時著シク増昇セシモノ	4.5		3.8	3.4		2.9			
後増昇セシ者	4.6	25.0	7.7	6.8	3.1	6.2	5.7	9.4	6.2
後少シ増昇セシモノ	0.6	3.1	1.0	2.8		2.4	3.4		2.9
後可成り増昇セシモノ	2.3	12.5	3.8	3.4	3.1	3.3	2.3	9.4	3.3
後著シク増昇セルモノ	1.1	9.4	2.4						
後一時著シク増昇セシモノ	0.6		0.5	0.6		0.5			
減降セシモノ	11.8	3.1	10.5	5.1		4.3	1.2		1.0
少シ減下セシモノ	4.5	3.1	4.3	2.8		2.4	0.6		0.5
著シク減下セシモノ	4.5		3.8				0.6		0.5
一時少シ減下セルモノ	2.8		2.4	2.3		1.9			
一時減下シ後増昇セシモノ	5.1		4.3	2.8		2.4			
患 者 例 數	177	32	209	177	32	209	177	32	209

第三項 喀血後増悪セル者ノ體溫、脈搏數及ビ呼吸數ノ關係

前項ニ於テ述ベタル者ノ中喀血後増悪セルト思ハル、者及ビ其ノ結果終ニ死亡ノ轉歸ヲ取レル者ハ體溫、脈數及ビ呼吸數ニ於テ共ニ同様ノ變化アリシ者ニ非ズシテ、多少ノ差異有リシモノナリ、依ツテ之等ガ如何ナル變化ヲ示セルカヲ知り、又増悪セシ者ニ於テハ之等三項ガ如何ナル差違ヲ示セルカヲ究メタリ、之レガ最モ正確ナル批判ニハ全ク同結果ヲ示セル者ノミニ就キテ互ニ比較スルヲ最良トスレドモ同結果ノ病例ハ餘リ多カラザルヲ以テ此所ニハ只前記ノ増悪セシ者及ビ死亡セル者ノ二〇九例ニ就キテ述ベントス。分類事項ハ大體第八表ノ如クナルヲ以テ各項ノ説明ハ省略セン。

原著 鈴木ニ肺結核患者ノ喀血ニ關スル統計的觀察

此ノ表ニ示ス如ク増悪例ニ在リテハ大多數ハ體溫、脈搏數及ビ呼吸數共ニ多少ニ拘ラズ増昇スルモノナリ、一時的増昇ヲ除外シ他ノ増昇ヲ合スル時ハ體溫ハ約六〇・〇%ニ増加ヲ見ル、一時増昇セルモノハ略々同様ノ率ニ在リテ約六・〇%ヨリ八・〇%ナリ而シテ減小或ハ低下セル者ハ體溫ニ多クシテ約一〇・〇%、次ハ脈數ニシテ約四・〇%、最少ハ呼吸數ニテ一・〇%ニ過ギズ、體溫下降ノ比較的多數ナルハ失血ノ結果ニモ起因シ或ハ榮養ノ急ニ減少セルニモ因レリ、又或ハ咯血時胸部ニ冰嚢ヲ貼付スル結果附近ノ冷却セラル、ニモ因ルナラン。兎モ角増悪例ノ中ニハ腋窩檢溫ノ結果ガ低下ヲ示スモノモ相當ノ數ニ存スルヲ知ル、然レドモ呼吸數ノ減少ハ甚ダ稀ナリ、又不變ナルモノハ他ノ事項ノ變化アリシニ拘ラズ其事項ハ變化ヲ示サザリシモノニテ之亦多クノ數ヲ示シ一五・〇%ヨリ一八・〇%ニアリ。

要スルニ咯血後ノ増悪例ニ於ケル體溫、脈數及ビ呼吸數ノ昇降關係ハ呼吸數ノ増加セルモノ最モ多クシテ脈數ノ增多セルモノ之ニ亞ギ而シテ體溫ノ上昇セル者次ギニ在リ、然レドモ之尙ホ六〇・〇%ヲ示ス、又之等三項ガ個々ナガラモ不變ナルモノ及ビ一時的ナガラモ増昇ヲ示セル例モ相當ニ多シ、體溫ノ下降ヲ示スモノハ可成リ多キモ呼吸數ノ減少ヲ見ルコトハ極メテ少ナシ。以上ニ依テ咯血後ノ増悪例ニ於テハ呼吸數ノ増加ガ最モ多ク意義アル所以ヲ認ムルヲ得ベシ。

第四項 咯血死ニ就テ

咯血死トシテ此所ニ述ブルモノハ咯血後間モナク死亡セル者ニテ、多クハ出血ノタメ窒息死ヲ起セル者ナランモ又空氣「エンボリー」或ハ急劇ナル「トーマス」ノ減少ノ結果ニモ因ルナラン。

咯血死ノ頻度ニ關スル歐米ノ文獻ハ Raiche ハ數萬人中僅ニ三人有リシトイヒ、Breitner ハ一萬四千ノ患者中一六例アリシト報ズ、Schroder ハ一一〇〇名中三例 Stricker ハ九百名ノ結核病ノ兵卒中四例有リタリト、又 Wolff ハ一一〇〇人中〇・二五%ニ Vinsch ハ二〇〇回ノ咯血例中一回即チ〇・五%又一〇〇回ノ咯血例中二回即チ二・〇%ナリシト報告シ、Thine ハ九七五〇人中ニテ一・六%ナリシトイヒ Sorgo ハ五八〇〇名ノ肺患者中一四例ニテ〇・二四%、咯血者ニ對スル比例ハ二・一六%トナリシト稱シ、何レモ僅少ノ數ニ過ギザルナリ。余ガ本邦人ノ六三六名ノ肺結核患者ニ就テ見ルニ此ノ咯血死ヲナセル者ハ八一例ニテ一・三%ニ相當ス、今之ヲ種々ノ項ニ分チ論ゼンニ

A 性別トノ關係ハ左ノ如クニシテ大差ヲ認メズ。

患者數		咯血死		%	
男子	四三一〇	五三	一・二	女子	二〇七八
計	六三八六	八一	一・三	計	六三八六

B 咯血者ニ對スル比

咯血者數		咯血死		%	
男子	八〇七	五三	六・六	女子	二二八
計	一〇三五	八一	七・八	計	一〇三五

ニシテ咯血者數ニ對スル比ハ女子ニ大ニシテ、男子ノ其ニ對シテ約二倍ニ相當ス、而シテ平均スルニ咯血者中七・八%ニ咯血死ヲ見タルナリ。

C 死亡者ニ對スル比

死亡者數		咯血死		%	
男子	二四六九	五三	二・一	女子	一三九二
計	三八六一	八一	二・一	計	三八六一

即チ此ノ%數ハ男女略同一ニシテ平均二・一%トナル。

サレバ肺結核ノ死亡者ニテハ其ノ百人ニ就キ二・一人ハ所謂咯血死ヲ起セリ。

D 年齢トノ關係。咯血死ノ例ヲ年齢ニヨリ見ルニ男子ハ一七歳ヨリ五六歳ノ間ニ在リテ女子ハ一四歳ヨリ五二歳ノ間ニ起リ之等ヲ分類スルニ二〇歳ヨリ三〇歳ノ間ニ多クシテ過半数ヲ占メタリ。

E 月別トノ關係、八一例ノ咯血死ヲ月ニ依テ分類セルニ規則的ナル増減ヲ示サズ、只五月ヨリ九月ノ間ニ多少多キ傾向ヲ示セルニ過ギズ。

D 時刻トノ關係、咯血死ノ起レル時刻ヲ見ルニ

午前六時ヨリ同十二時迄

一二例

午後一時ヨリ同六時迄

一八例 三七・〇%

午後六時ヨリ同十二時迄

二三例

午前零時ヨリ同六時迄

二八例 六三・〇%

ニシテ咯血死モ夜間ニ多數ナル如シ、即チ六三・〇%ハ午後六時ヨリ翌朝ノ六時迄ノ間ニ有リキ。

G 咯血量トノ關係、精確ノ咯血量ハ求メ得ザリシモ咯出血量ヲ大體ニ記載セル結果ハ大多數ハ大量ナリ、然レドモ必ずシモ大量咯出アルニ非ズシテ余ハ三七歳ノ男子ニテ僅ニ數垓ノ咯出血量在リタルノミニテ窒息セル例ヲ見タリ。

第三章 咯血發現時直前ノ事項ニ就テ

身體的運動或ハ精神的事項ハ咯血ニ對シ重要ナル誘因的關係ヲ有スルモノナリヤ否ヤハ吾人ノ切ニ窮知セント欲スル所ナリ、然レドモ本問題ニ關シテハ諸家各々述ブル所アリテ一致セザルニ鑑ミテ余ハ本篇ノ調査ヲ試ミタリ。然レドモ咯血前存在セシ事項必ずシモ其ノ誘因動機タリシニハ非ラズ、故ニ余ハ特ニ「咯血發現時直前事項」ト題シ之ヲ誘因動機ト呼ブヲ避ケタリ、而シテ余ハ此ノ咯血發現時直前ノ事項調査ヨリ之等誘因動機ニ就キテ言及セントスル者ナルモ此所ニハ身體運動トノ關係ヲ主トシテ論ゼリ。

余ハ確實ナル咯血例ニ對シテ、其ノ直前ニ何事カ變リタル事項ノ存在セシヤ否ヤト其事項ノ種類トヲ各患者ニ就キテ精シク聴取シテ分類ヲ試ミタリ、理論的ニハ同一事項ノ起レル者ノ中何人咯血セルカノ率ヲ求メ、各事項ヲ比較スル時ハ如何ナル事項ノ直後ニ最モ多ク咯血ノ惹起セラル、カヲ知り得ルモ、此ハ又更ニ同一病狀ノ患者ニ就キテ比較スル必要

ヲ生ジ甚ダ複雑トナルベシ、然レドモ此ノ調査ハ不可能ノ事ナルヲ以テ此所ニハ今實際ノ咯血例ニ就キ患者ノ記憶及ビ記載ノ確實ナル始發咯血ニ就テノミ調査シタリ、其例數甚ダ必ズシモ充分ナリト言フニハ非ザレドモ一〇〇〇例ニ及ビタルヲ以テ一先ツ之ヲ一括シテ報告セントスルモノナリ。

余ノ得タル咯血患者例ハ三一二名ニテ男子二四二名、女子七〇名ナリ、男子ノ咯血例ハ七六四例、女子ハ二三六例ナリ、之等ノ患者ノ年齢ハ一四歳ヨリ六二歳ニ互レリ、事項分類ノ方法ヲ余ハ第十四表及ビ第十五表ノ如クセリ、咯血直前何等カノ事項有リシモノト無カリシ者ト二分チ、前者ヲ更ニ四大別シテ更ニ又細項ニ入レリ、後者ハ之ヲ不明瞭ナルモノ及ビ全ク不明ナルモノ、二部門ニ分チ、直前ニハ事項無カリシモ少シク以前ニ變動有リシモノ或ハ少シク以前ヨリ異變加ハリタルモノハ發現直前ノ事項不明瞭ト爲セリ、更ニ直前ハ勿論以前ニモ何等生活狀態及ビ病狀ニ異變無カリシ者ヲ不明トセリ、而シテ咯血發現時直前ノ身體的關係ニ就テハ時ニ甚ダ複雑ニシテ到底之ヲ簡單ニ述ブル能ハザルモノ有リ、之等ノ調査ハ第十四表及第十五表ニ收メタルモ該表ニ就テ二三ノ説明ヲナセバ左ノ如シ、表ノ細項ニ於テ相類似セルモノハ一ケ所ニ纏メテ説明シ、簡單ナルモノハ説明セザリキ、又生活狀態トシテ相異セル事項ニシテ運動學上ヨリハ同部類ニ屬スルモノモ別ノ項ニセルアリ、又女性ノ月經ハ之ヲ調査セシモ左表ハ男女合併數ナルヲ以テ除外シ置ケリ。

關係事項明瞭ナルモノ 咯血直前何等カノ事項アリシ例ナリ。

一 「身體的事項」 咯血直前ニ多少ニ拘ラズ身體的勞作ノ有リタルモノハ皆之ヲ此ノ項ニ一括セリ。

(1) 「筋肉勞働中及直後」 筋肉勞働中或ハ直後ニ咯血ノ起リシモノナリ、余等ノ療養所ニ療養中ノ者ニテ入所前筋肉勞働ノ職業ニ從事セル者ハ多數ナリ、從ツテ發病後ト雖モ生活上無理ニ働ケル者ハ多數ナリ、此ノ項ニハ實際ノ筋肉勞働中ノモノ、外少時ノ休息中ニ起レルモノモ算入セリ。

(2) 「輕度ノ仕事」 之ハ次項トノ區別ノタメ仕事トナセルモノニテ僅ノ動作ナルモ後者ヨリ少シク強度ノモノナリ。

A 「外出歩行中」 用途等ノ外出歩行中ノモノニテ療養中ノ散步ト別ナリ。

B 「乗車中」 諸種ノ車ニ乘リツ、在リテ起レル者ニシテ病院通ヒ中、電車内ニテ起レル等アリ。

C 「掃除、臺所仕事、裁縫、小細工仕事及ビ庭仕事」ハ其ノ文字通り其儘ノ意味ナリ、小細工仕事トセルハ二例共ニ鋸ニテ木ヲ挽キツ、在リシ時ニ起レル者ナリ。

D 「看病中」之ハ家族ノ病人ヲ看護中起レル者ニテ其間可成リ疲勞狀態モ有リシガ如キモ二例共ニ病室内ノ取片付ケ中ナリキ。

E 「重キ物ヲ持チテ」重キ物ヲ持タントシテ風身セル時又ハ持チツ、有リシ時或ハ其直ク後ニ起レルモノナリ。

(3) 「輕微ナル動作」前記諸項ヨリ更ニ輕度ノモノナリ。

A 「入浴中及ビ直後」之ハ浴場内ニテ起セル者ヲ全部入レタリ、然レドモ眞ニ浴槽内ニテ咯血セル者ハ一例モ無シ、皆浴槽周圍ニテ洗ヒ或ハ休ミ居リタル時又ハ着衣場ニテ咳嗽ト共ニ起レルモノナリ、之レ既往症調査中ニハ可成リ屢々聞ク所ナレドモ、余等ノ療養所ニテハ大正九年開所以來拾萬回ニ垂トスル入浴例數中一例ノ浴場内小咯血ト一例ノ着衣場ニテ起レル小咯血有リシノミナリ、此浴場内ニテ咯血セル患者ハ其ノ以前時々血痰ヲ咯出セル者ニテ關節「ロイマチスムス」ヲ有シ、久シ振リニテ入浴シ二回程浴槽内ニテ温マリ、友人ノ背中ヲモ流シナドシテ其後坐位ニテ休ミ居リタルニ、咳嗽ノ後ニ二回血痰ヲ咯出シタルニ引續キ約三〇距離ノ咯血ヲナセル者ナリ、又他ノ一例ハ強キ咳嗽ヲナシツ、着衣場ヲ出テテ戸ノ所ニ至レルニ、極ク輕度ノ咯血ヲナシ、手拭ニテ壓ヘツ、二町餘ノ病室迄歩キタルニ其後全ク止マリテ僅ノ血痰有リシノミナリ。

B 「用傾中及ビ直後」之レハ病牀上ニテ、又ハ室内ニテ或ハ便所内ニテ或ハ其等ノ直後起レルモノナリ。

C 「階段昇降中及ビ直後」之レニ屬スル者ニテ血痰咯出中ニ來レル者ハ血痰運動中ノ項ニ入レタリ。

D 「蒲團片付中」、重キ物ヲ持チテノ項ニ入ルベキモ今特ニ別ニセリ。

E 「室内歩行中及ビ直後」室内ノミヲ僅ニ歩メル程度ノモノナリ。

F 「散歩中及ビ直後」庭内ノ散歩位ヲ云フ。

G 「臥位變更中及ビ直後」病牀ニ於ケル體位變更ノ事ナリ。

H 「起牀セントシテ」目ヲ覺シテ起キ出テントセル時起レルモノ。

I 「就寢セントシテ」牀ノ上ニ坐リテ或ハ横ニナラントセル時ニ起レルモノ。

J 「上肢ヲ伸展シテ」上肢ヲ伸バシテ何物カラ取ラントシ或ハ押シ遣ラントセル時起レルモノナリ。

K 「深呼吸中」此一例ハ醫師ノ許ニテ診察中深呼吸ヲナシテ起レルモノナリ。

L 「腹部ニカラ入レテ」腹壓ヲ強メタル時ノ事ニシテ胃腸ノ工合悪ク不快ノ感アリテ、或ハ腹部ノ鳴ルタメニカラ入レタル時ニ起レルモノナリ。

(4) 「遊戯」 運動中或ハ其休息中ニ起レルモノナリ。

A 「室内ニ戯レツ、在リテ」 之ハ子供等ト室内ニテ戯レツ、在リシ時起レル例ニテ、シカモ十九歳ノ男子ノ初期咯血ノ一例ナリ。

B 「大聲ニ歌ヒテ」 歌ヒツ、在ル時或ハ直後ニ起レルモノナリ。

(5) 「突然ノ激動」 突然ノ運動ニシテ電軍ニ飛ビ乘ラントシテ、走り飛ビ乘リタルト同時ニ咯血セルモノ、或ハ石垣ヨリ飛ビ降りテ起レル者或ハ石ニ蹠キ倒レントセル時ノ直後起レル者等ナリ。

(6) 「飲食物ニ關スルモノ」 主トシテ飲食物ニ關スルモノナリ。

A 「飲食物及ビ藥ニ咽テ」 之ニハ洗面時ノ齒磨粉ニムセテ起レル例モアリ。

B 「異物ノ咽喉部ニ入りテ吐ク時」 魚骨、蟲等ノ入りタル時吐クベク努力セル時ニ起レルモノナリ。

C 「煙ニ咽テ」 煙草或ハ煤煙ニ咽セテ起レルモノ。

D 「熱キモノ及ビ冷キモノヲ攝リテ」 非常ニ熱キ「コーヒー」及ビ紅茶或ハ冰ヲ飲ミツ、在リシ時起レル例ナリ。

E 「刺戟性食物ヲ攝リタル時」 山葵或ハ非常ニ苦味ノ物ヲ攝リテ悶ヘツ、在リシ時起レルモノナリ。

F 「飲料ヲ飲ミツ、在リテ」 「サイダー」ヲ飲ミツ、在リシ時ニ起レルモノナリ。

G 「酒ヲ飲ミテ運動中」 酒ヲ飲ミテ疾走シ、或ハ自轉車ニ乘リツ、在リテ起レル等ノ例ナリ。

二 「病的事項」 之ハ後編ノ不明瞭ノ病狀變化トセルモノト差別困難ナルモ血痰及ビ咳嗽關係ヲ特ニ知ラントシテ此所ニ別ニナセルモノニシテ詳シクハ後述セン。

(1) 「血痰中」 血痰咯出中ニアリシコトナリ。

A 「運動ヲナシテ」 一般ニハ血痰中ハ安靜ニスルモノナルモ生活ノ必要上止ムヲ得ズ血痰中働キ居リタル時ニ起レル者、及ビ自暴自棄ニテ亂暴ナル事ヲナセル時或ハ其ノ直後又ハ血痰中病院ニ行キ起レル等ノモノナリ。

B 「興奮スル事有リテ」 非常ニ感激スル事有リテ其ノ中ニ起リ來レルモノナリ。

(2) 「強度ノ咳嗽發作中」 元來咳嗽ハ咯血ニ隨伴スルモノニシテ咯血ノタメニ咳嗽起レルヤ咳嗽ノタメニ咯血誘起セラレタルヤ、此間ノ消息ヲ判然ト識別スル事ハ至難ナルモノアリ、余ハ此所ニハ強キ咳嗽發作中ニ咯血ノ起リ來レルモノ、

ミヲ算入シ咯血ニ引キ續キテ咳嗽發作ノ起レルモノハ加ヘザリキ、勿論出血ガ未ダ外部ニ見ヘザルニ内部ニテハ既ニ出血有リテ此ノタメニ咳嗽ノ前驅スル事モ有ラン、然レドモ此所ニハ所謂「咳込ミ」タル状態ニ於テ咯血ノ起リ來レル者ノミヲ採用セリ。

A 「安靜中」 少シ位ノ談話アリタルモノモ此ノ中ニ加ヘタリ。

(3) 「其他ノ變化」

A 「嘔吐及ビ衄血ニ續キテ起レルモノ」 嘔吐或ハ衄血ニ引キ續キ起レル者ナリ。

三 「精神的事項」 主トシテ精神作用ノ存在著明ナリシモノナリ。

A 「夢ニテ興奮セル時」 興奮セル夢ヲ見、目ノ覺メタル時既ニ咯血シ居リタル者、又ハ目ノ覺ムルト同時ニ咯血シ來レル者ナリ。

B 「突然興奮スル事有リテ」 血痰中ニ擧ゲタル同名ノ項ト同意ニシテ其他讀書中ニ興奮セル者及ビ近所ノ火事ニテ驚キ起キ出デントシタル時又ハ口論セル時等ニ起レル者ナリ。

C 「長時間ノ談話中」 長時間ニ渉ル談話中起レル者及ビ雜談ニ笑ヒ與セル時ニ起レル等ノ例ナリ。

D 「讀書中及ビ受験中」 讀ミ或ハ書キツ、在リシ時及ビ受験場ニテ熟慮中起レル者ナリ。

四 「氣溫的事項」 溫室ノ刺戟ノ作用或リシ場合起レル者ナリ。

A 「日光浴中」 日光浴ヲ少シク度ヲ過シ長ク行ヒタル時、或ハ不規則ニ行ヒタル時ニ起レル者ナリ。

B 「ストーブ」ニ溫マリツ、在リテ」 溫マリツ、在リテ起レル者ナリ。

C 「急ニ冷氣ニ當リテ」 溫キ部屋ヨリ外ニ出テタル時又ハ窓ヲ開キ冷キ風ノ強ク吹き入りタル時ニ起レルモノナリ。

D 「降雪中ノ歩行」 外出中ナルモ降雪中ノ冷氣關係モアリシ故別ニセリ。

E 「寒行中」 信仰ノタメ寒中水ヲ身體ニ掛ケツ、在リシ時起レルモノニテ同一人ニ時ヲ距テ二回來レリ。

關係事項不明瞭ナルモノ 咯血ノ直前ニハ變化無リシモ其ノ少シク以前或ハ其日ニ常ヨリモ變リタル事ノ有リタル場合ニ起レル例ナリ。

(1) 「生活状態ニ變化有リシモノ」 平常ノ生活状態ニ少シク異常有リシモノナリ。

A 「過劇ナル運動ノ後」 運動が過ギタル日、後ニ至リテ咯血セルモノナリ、患者ニ尋ヌルニ相撲ヲシテ起リマシタト稱スル者モ、詳シク聽ク時ハ咯血ハ相撲最中或ハ其ノ直後ニ非ラズシテ其ノ翌朝咯血セル者等ノ如キ此類ニ入レタリ。

B 「旅行ヲナシタル日」 汽車、汽船ノ旅行後ニ起レルモノ。

C 「日光浴ノ過多ナリシ日」 日光浴中ニ非ズシテ過度ナリシ事ノアリシ日ノ後刻ニ起レルモノ。

D 「過食ヲナシタル後」 食ビ過ギタリト思ハレタル後ニ起レルモノ。

E 「入浴ヲナシタル日」 久シ振リニテ入浴ヲナセル日ノ後刻ニ至リテ起レルモノ。

F 「大酒ヲ飲ミテ休息中」 之レハ飲酒後ノ運動中ニ起レルモノニ對シテ區別シタルモノナリ。

G 「不攝生ヲ續クル間ニ」 直前ハ勿論少シク以前ニモ格別ノ事無カリシモ大體其當時屢ク不攝生ナル生活ヲナシツ、アリタル者ニ起レル例ナリ。

(2) 「病狀ニ變化有リシモノ」 直前ニハ非ザルモ少シク以前ヨリ病狀ニ變化有リタル者ナリ。

A 「急ニ發熱セル時起レルモノ」 數十分或ハ數時間前ヨリ發熱セル時ニ起レルモノ。

B 此ノ部類ニ於テハ他ノ事項モ時間的ニハ皆略同様ノ關係ナルモ感冒、咽喉加答兒、不眠症等ハ數日前ヨリ在リシ者ヲモ此所ニ算入セリ。

(3) 「輕度ノ咳嗽ト共ニ」 輕度ノ咳嗽ノタメニ咯血スルヤ否ヤ識別ノ難キコトハ、強度ノ發作ノ場合ト同様ナレドモ、兎モ角咯血前他ノ何等ノ事項ナク唯輕度ノ咳嗽有リテ其ノ中ニ起リ來レルモノヲ此所ニ集メタリ。

關係事項全ク不明ナルモノ 咯血ノ直前ニハ勿論以前ニモ少シモ生活狀態及ビ病狀ニハ變化無ク、又直前ニ咳嗽ノ記憶スラ存セザリシ狀態ニ於テ咯血セル例ナリ。

以上ノ各項ニ分テ調査セシガ其調査ニ當テハ先ツ身體的事項ノ存セルモノハ極メテ輕微ノモノト雖モ之レニ算入シタリ、故ニ此者ニ同時ニ咳嗽其他精神的作用等ノ加ハリ居リシ事ハ勿論ナリ、而シテ此ノ輕微ナル身體的事項スラ求ムルコト能ハザル時ニ於テ初メテ病的事項及ビ氣溫の事項ノ有無ヲ検査シ、之等スラ聽取シ得ルモノ無キ時ニ於テ、關係事項不明瞭ノ部門ニ掲ゲタル諸項ヲ尋テタリ、尙又之ニ於テモ何等見出シ難キ時ニ至テ咳嗽關係ニ入りタリ、故ニ全ク不明ナル部門ハ咳嗽關係スラ無キ狀態ニ起レルモノナリ、故ニ前記各項ニ擧ゲタル中ニ咳嗽ノ含マレ居リタルモノハ少カラズ從テ咳嗽ノ成績ハ過小ニ失スル事ヲ認メザル可カラズ、即チ最小限度ヲ示セルモノトスベシ、咳嗽ノ項ヲ強弱ニ分

第十四表

原著 鈴木 肺結核患者ノ咯血ニ關スル統計的觀察

	男	女	計	%
I 身體的事項	224	65	289	28.9
1 筋肉労働ニ屬スルモノ	44	4	48	4.8
2 輕度ノ仕事ニ屬スルモノ	36	19	55	5.5
3 輕微ノ動作ニ屬スルモノ	92	25	117	11.7
4 遊戯ニ屬スルモノ	16	3	19	1.9
5 突然ノ劇動ニ屬スルモノ	4		4	0.4
6 飲食物ニ關スルモノ	32	14	46	4.6
II 病的事項	139	74	213	21.3
1 血痰咯出中	54	24	78	7.8
2 強度ノ咳嗽發作中	128	50	178	17.8
3 其他ノ變化	7		7	0.7
III 精神的事項	79	14	93	9.3
IV 氣温的事項	16	2	18	1.8
以上合計數	508	155	663	66.3
I 關係事項不明瞭ナル例	220	59	279	27.9
1 生活状態ニ變化アリシモノ	75	13	88	8.8
2 病状ニ變化アリシモノ	33	10	43	4.3
3 輕度ノ咳嗽アリシ時	112	36	148	14.8
II 關係事項全ク不明ナル例	36	22	58	5.8
以上合計數	256	81	337	33.7
總計	764	236	1000	100.0

第十五表

咯血發現時直前何等カノ事項アリシ例	I 身體的事項		計	% 4.8	2.1	II 呼吸中 腹部ニカヲ入レタル時			
	男	女				計	%		
(I) 筋肉労働ニ屬スルモノ	44	4	48	4.8	21	1	1	5	0.6
屋外労働中						16	3	19	1.9
(II) 遊戯ニ屬スルモノ									

テルモ、其ノ境界ハ勿論判然タルニ非ズシテ大體ニ分チタルモノナリ、又強度ノ咳嗽ヲ病的事項ニ算入シタルハ強度ノ咳嗽ガ輕度ノモノヨリモ咯血ヲ誘發スルコトハ考ヘ得ラル、所ナルヲ以テ特ニ之ヲ輕度ノモノト區別セリ。大別ハ第十四表ノ如クナルモ細項ニ互リテハ第十五表ノ示ス如シ、之ヲ見ル時ハ重復ノ觀有ル項モ生ジ又不足ノ項モ有リテ小數例ニテ全咯血ヲ説明スル事ハ勿論困難ナルモ今余ハ前記一〇〇例ノ分類ノ結果ノ示ス大體ノ趨勢ニ就テ論旨ヲ進メントス。

咯血直前事項ノ大小ヲ問ハズ何事カノ

屋外夜業中	1		1	0.1	△ 月外遊戯	6	1	7	0.7
室内労働中	10	4	14	1.4	野球中	1		1	0.1
室内夜業中	5		5	0.5	庭球中	1		1	0.1
荷車ヲ曳キツ、在リテ	3		3	0.3	テラソソ中	1	1	2	0.2
自轉車ニ乗車中及直後	4		4	0.4	登山中	2		2	0.2
					海水浴中	1		1	0.1
(2) 軽度ノ仕事ニ關スルモノ	36	19	55	5.5					
外出歩行中	14	4	18	1.8	△ 室内遊戯	10	2	12	1.2
乗車中	4	1	5	0.5	カルタ遊ビ中			1	0.1
掃除中	2	3	5	0.5	圍碁ノ對局中	1		1	0.1
臺所仕事	1	2	3	0.3	室内ニ戯レツ、在リテ	1	1	1	0.1
裁縫中	1	4	4	0.4	芝居見物中	1	1	1	0.1
小細工仕事	1	1	2	0.2	大聲ニ歌ヒテ	6	2	8	0.8
庭仕事	1	1	2	0.2					
看病中	1	1	2	0.2	(5) 突然ノ劇動ニ關スルモノ	4		4	0.4
看物ヲ持チテ	1	1	2	0.2	飛ビ乘リ及飛降リテ	3		3	0.3
	12	2	14	1.4	石ニ墜キテ	1		1	0.1
(3) 輕微ナル動作ニ關スルモノ	92	25	117	11.7					
洗面中	10	2	12	1.2	(6) 飲食物ニ關スルモノ	32	14	46	4.6
入浴中及直後	9	1	10	1.0	食事中	4	5	9	0.9
含嗽中	4	1	5	0.5	食事直後	3	2	5	0.5
用便中及直後	6	2	8	0.8	飲食物及藥ニ咽セテ	3	3	6	0.6
階段昇降中及直後	4		4	0.4	煙ニ咽セテ	6	1	7	0.7
布團片付中	8	2	10	1.0	異物ノ咽喉部ニ入り吐ク時	2	1	3	0.3
冷水摩擦中		1	1	0.1	過熱及過冷ノ物ヲ握リテ	2	1	3	0.3
更衣中	2	1	3	0.3	飲料ヲ飲ミツ、アリテ		1	1	0.1
室内歩行中及直後	3	2	5	0.5	酒ヲ飲ミツ、アリテ	2		2	0.2
散歩中及直後	9	1	10	1.0	酒ヲ飲ミ運動中	7		7	0.7
臥位變更中及直後	5	3	8	0.8	刺激性食物ヲ攝リテ	3		3	0.3

就寝セントシテ	9	2	11	1.1
起床セントシテ	14	3	17	1.7
上肢ヲ伸展シテ	4	3	7	0.7
合 計	225	65	289	28.9

II 病的 注 項	男	女	計	%	關係事項ノ有無不明瞭ナル例及全ク不明ナル例			
					男	女	計	%
1 血痰咯出中	54	24	78	7.8	(1)生活状態ニ變化アリシ例			
安靜中	4	3	7	0.7	75	13	88	8.8
運動ヲナシテ	18	2	20	2.0	44	8	52	5.2
興奮スル事アリテ	3	2	5	0.5	7	2	9	0.9
咳嗽發作アリテ	29	17	46	4.6	6	2	8	0.8
2 強度ノ咳嗽發作中	128	50	178	17.8	4	1	5	0.5
安靜中	88	30	118	11.8	2	2	4	0.4
就寝中	20	14	34	3.4	2	2	4	0.4
運動中	11	6	17	1.7	10		10	1.0
3 其他ノ變化	7		7	0.7	(2)病狀ニ變化アリシ例			
嘔吐ニ續キ起レルモノ	4		4	0.4	2		2	0.2
頭血ニ續キ起レルモノ	3		3	0.3	2	2	4	0.4
合 計	189	74	263	26.3	5	5	10	1.0
III 精 神 的 事 項					3	1	4	0.4
夢ニ興奮セル時	33	6	39	3.9	2		2	0.2
突然興奮セル時	9	3	12	1.2	2		2	0.2
長時間ノ談話中	25	4	29	2.9	3	3	6	0.6
讀書中	11	1	12	1.2	2	2	4	0.4
受験中	1		1	0.1	1	2	3	0.3
					8	2	10	1.0

合	計	79	14	93	9.3	(3) 輕度ノ咳嗽アリシ時		112	36	148	14.8			
						安靜中 就寢中	合計							
IV 氣 溫 的 事 項	計	508	155	663	66.3	關係事項全ク不明ナル例		764	236	1000	10.0			
						合計	計							
日光浴中	3	1	2	0.3	合計	220	59	279	27.9	合計	36	22	58	5.8
ストーブニ溫リツ、在リテ 急ニ冷氣ニ當リテ 降雪中ノ歩行中 寒行中	5 5 1 2	1 1 1 2	6 6 0.6 0.2	21 15										
合	計	16	2	18	1.8	合計	合計	36	22	58	5.8			
以 上 總 計	計	508	155	663	66.3	總 計	總 計	764	236	1000	10.0			

變化事項有リシモノハ六六・三％ナリ、所謂關連事項不明瞭ナルモノハ二七・九％ニテ全ク不明ナルモノハ五・八％ナリ、之ヲ見ル時ハ咯血直前ニ何等カノ事項ノ存在セシモノガ大多數ナルモノ、如シ、然レドモ是等直前事項トシテ擧ゲタル中、身體的事項ニ屬スルモノハ甚ダ微細ナルモノスラ全部入ル、ニ二八・九％ニ過キズ、而シテ他ノ部類ノ身體運動ノ條項ニ關スルモノヲモ合算スルニ三二・九％トナリ、他ノ三三・四％ハ身體運動事項以外ノ直前事項ナリ、然モ此ノ三二・九％ナル身體運動事項中ニハ前記ノ如ク實ニ微々タル細事ニ過ギザルモノ甚ダ多ク、斯ル小事項ハ安靜ヲ主トスル日常生活ニテスラ常ニ繰リ返ヘサレ行ハル、動作ニシテ、如何ナル生活ニテモ殆ド避ケ難キ程ノ事項多シ、故ニ是等ノ事項ガ常ニ咯血ノ誘因ヲナスモノトハ看做シ難シ、然ラバ少シク強烈ニ互ル身體的事項ハ如何ト見ルニ筋肉勞働、遊戲、激動及ビ其他二、三ノ項ニ求ムルニ約一・五％トナルモ此ノ中ニハ運動中ニ非ズシテ其休息時ニ起レルモノヲモ算入シアリ、而シテ是等ノ事項ハ我が療養所内ニテモ日常頻々行ハル、事柄ニシテ療養中ノ患者ガ走驅シ、或ハ喧嘩ヲナシ、又ハ可成リノ劇働ヲナス事ハ實際ニ尠キモノニ非ラス、況ヤ病院外ノ生活ニテハ更ニ一層頻々タル事柄ナリ、而シテ我が療養所内ニ於テ療養中斯ル事項ノ際患者ノ咯血セルヲ未ダ一例モ見ズ、故ニ少シク強度ノ身體的動作ト雖モ常ニ咯血ヲ誘起

スルモノトハ到底思惟スルヲ得ズ、然レドモ飛降り、飛降りヲナシタル直後ニ發現セルガ如キ例ハ偶然ノ出來事ト見ルヨリハ身體劇動、或ハ胸部劇動ノ結果誘起セルモノト見ルヲ正常ニ近キモノトス、尙又輕微ナル動作ニテモ上肢ヲ伸展セントテ胸廓ノ異常運動ヲナセル時、或ハ上體ヲ屈シテ重キ物ヲ持タントセル時等ニ發現セルモノモ此ノ運動ニ起因セルモノト見ルヲ可トセンモ、之等運動ハ必ズシモ咯血ヲ伴フモノニ非ズシテ、恐ラクハ甚ダ稀ニノミ誘發スルモノナラン。況ヤ之等ニ咳嗽ノ多ク伴ヒ來ルガ如キコト有ルヲ以テ一般身體の事項トシテノ誘因の意義ハ更ニ薄弱トナルベシ更ニ進ンデ直前事項トシテ擧ゲタル他ノ事項ヲ見ルニ最多キハ強度ノ咳嗽ニシテ、就中安靜中ノ者ニ著シク多數ニテ、血痰中ノ者及ビ就寢中ノ者之レニ次グ、然レドモ此咳嗽ガ果シテ眞ノ咯血ノ誘因タリシヤ否ヤハ疑問ニシテ、前述セル如ク外部ニ出血見ヘザルニ内部ニハ既ニ出血在リテ其排除ノタメニ咳嗽ノ起レルモノナル時ハ直前事項トシテハ意義無キモノトス、又病竈狀態ガ咯血ヲ起ス可クナル時ニハ同時ニ咳嗽ヲモ起スモノナルモ誘因的關係ヲ認ムル能ハザルヤ明カナリ、サレド其何レニモセヨ此ノ事ハ病竈關係ノ然ラレムル所ナリ。其他夢ニテ興奮セル事有リテ起レル者モ稍ヤ多數ナリ、是ニ咳嗽ノ伴ヘルコトハ勿論アルモ、此ノモノガ誘因ナリシヤ否ヤノ斷定ハ難キモ主トシテ精神作用或ハ病竈狀態ノ結果ナル事ハ明カナリ。尙又此所ニ附言ス可キ事項ハ彼ノ過ギニシ大正十二年九月一日ノ大地震ノ時ニシテ此ノ事ハ第一章第四項ニ少シク述べタルモ當時余等ノ療養所ニハ四六七名ノ肺結核患者收容セラレツ、在リシガ、彼ノ劇變ニ際シテ咯血セル者ハ只二例ニ過ギザルナリ、更ニ之等ノ例ヲ詳シク調査セルニ一例ハ咯血後ノ血痰中ニ起レルモノニテ可成リ強度ノ血痰ヲ咯出シツ、アリシ者ナリ、此患者ハ最初ノ劇震後病牀ヨリ逃ゲ出デントシテ少量ノ咯血ヲナシタリ。他ノ例ハ既ニ屋外ニ避難セル後ノ休養中ニ起レル者ニテ此患者ノ咯血量モ大量ニ非ザリキ、以上ノ事實ヲ以テスレバ心身ノ強烈ナル興奮スラ必ズシモ大イニ咯血ヲ誘發スルモノニ非ザル事ヲ推測スルニ難カラザルナリ。

次ニ余ハ關係事項ノ有無不明瞭ナル部門ヲ見ルニ、此所ニモ輕度ナガラ矢張り咳嗽關係ガ最高位ナリ、同日過激ナル運動ヲナセル後ニ起レル者之ニ亞ゲリ、而シテ咳嗽關係ハ大體強度ノ發作ノ場合ト同様ナリ、個性ニヨリ、又時期ニ依リ

テ咳嗽ノ強弱アリテ其關係ハ前記強度ノモノト大同小異ナルモノナラン、其日ノ運動ノ過度ナリシ場合ニ起ル事ハ元來長期療養生活中ニ頻々アリ得ルコトニシテ其ノ多數ノ結果ノ然ラシムル所ナルヤモ知レザレドモ、又他面ニハ過度ノ運動ガ體內關係、及び病竈狀態ヲ變化セシメテ咯血ニ至ラシムル事ノ存スルヤモ否定スルヲ得ズ。

最後ノ全ク事項不明ナルモノモ相當ニ多數ニ上レリ、即チ咯血ハ其直前ニ身體の事項ハ勿論精神の事項、其他凡テ何等氣付ク所ナキ程度ニテ殆ド全ク異變無キ狀態ニ於テスラ可成リ多ク發現スルモノナル事ヲ知ル。

而シテ之等咯血ト身體狀態ニ關スル文獻ヲ顧ルニ一方ニハ嚴密ナル絶對安靜ヲ要求スル者アリ、他面ニハ斯ル嚴重ナル安靜ハ反ツテ無益有害ナリト唱フル者アリ。Nihon ハ咯血時動クノハ惡クナイト稱シ、Focke モ咯血ノ保守的處置ハ改良ス可キモノ有リトシ、Dührsen, Kindfleisch, Wilhelm Naumann モ同様ノ主張ヲナセリ、S. Bang ハ諸家ノ大小循環系統ニ關スル研究ヲ引用シ、肺循環ノ血壓ハ筋肉勞働中極メテ僅ニ上昇スルニ過ギザルモノナリトシ、身體運動ガ肺循環ノ血壓ノ高張ヲ來シテ其結果肺出血ヲ起スガ如キヲ信ズル根據ハ皆無ナリト稱ス、又氏ハ患者ノ咯血例ヨリ種々ナル統計表ヲ記載セリ、其ノ二三ヲ引用スルニ二九八回ノ咯血ノ起レル時ノ患者ノ狀態ヲ分チタルニ

病牀ニ横臥中

一七五

六九・〇%

寢椅子ニ横臥中

三四

直立セルカ或ハ横臥セル直後

二二三

病牀ニ起キ上レル時

九

一五・〇%

更衣中

一四

病牀以外ノ所ニアリテ

二五

八・〇%

散歩或ハ仕事中

一八

六・〇%

六九・〇%ハ横臥位ニテ、六・〇%ハ散歩或ハ仕事中ニ起レリ、患者ガ療養生中ノ散歩間ニ走り、跳ビ廻リ、或ハ喧嘩スルガ如キハ稀有ナラザルニ斯ク小數ナルニハ驚クト稱ス、又前記横臥位ニ起レル二〇九例ヲ分類スレバ左ノ如シト

病牀ニテ	六六		
安靜ナル横位ニテ	三〇		
夜中	二七		
夜間目ノ覺メタル時	二〇		
朝目ノ覺メタル時	二六	二五・〇%	三八・〇%
晝間目ノ覺メタル時	六		
寢椅子ニ横臥中	一五		
寢椅子ニ安樂ノ位置ニテ	一九	一六・〇%	
			八四・〇%

而シテ二三・〇%ハ安靜ノ位置ニテ起リ患者モ咯血前ニ身體ヲ動カサザリシト主張セリト、又三八・〇%ハ睡眠時間ニ起レル事モ注目スベシト云フ、又論ジテ曰ク咯血ハ病牀位ニテ殆ド三分ノ一、睡眠中殆ド四分ノ一ヲ見ルヲ以テ合スレバ、六〇・〇%トナル、又大咯血モ殆ド三分ノ一ハ睡眠中他ノ三分ノ一ハ椅子ニ横臥中起レルヲ以テ約七〇・〇%トナル、故ニ大小咯血共ニ安靜時ニ多ク起ルモノナリト稱ス、氏ハ又日常生活中ノ安靜時間及ビ運動時間ノ割合ヲモ願慮シテ述ブル所アリ、結局肺ノ充血及ビ鬱血ノ方ガ身體的運動ヨリモ咯血誘因ノ機會的原因ヲナスニ大ナル意義ヲ有スト論ゼリ。而シテ *S. Bunge* ノ成績ハ主トシテ咯血ノ起レル時ノ體位及ビ時期ヨリ論ゼルモノニテ咯血前ノ諸種ノ事項ニ就テハ詳細シク探索スル所ナシ、故ニ誘因動機ノ詳細ニ至リテハ論述スル所多カラズ、故ニ余ハ此ノ誘因動機關係ノ有無及ビ種類ニ就キテ檢索セリ、而シテ前述ノ調査ヨリ身體運動ノ關聯スル事項アリテ其ノ直後ニ咯血ノ誘發セラレタル事ハ比較的少數ナルヲ知り、更ニ又之等身體的運動ガ眞ニ咯血ノ誘因タルベシト思ハシメタル場合ハ甚ダ少數例ニ過ギザリシ結果ヲ得タルモノトス。

總 括

余ハ東京市療養所ニ於テ一九二一年ヨリ一九二五年ノ滿五ケ年ニ互リ、日本ノ肺結核患者ノ咯血ニ就キ統計的觀察ヲ行ヒタリ。余ハ咯血ヲ其ノ發現時期ニ依リ始發咯血及ビ續發咯血ニ分チ、又咯血ガ發病ノ第一徵候タリシモノヲ特ニ初期咯血ト呼ベリ、次ニ統計ノ結果ヲ示サン。

一、我ガ療養所ニ入所セル患者中咯血ノ既往症ヲ有セシ者ハ三七・七%ニシテ、療養中咯血セル者ハ六三八六名ノ全患者中一六・三%ナリ、又六三二一名ノ肺結核死亡者ニ於テ全經過中ニ咯血セル者ノ率ハ五一・三%ナリキ。

二、男女ノ性別ニ依リテ咯血ノ頻度ヲ異ニシ、既往症ニ於テモ、在所療養中ニ於テモ、尙又死亡者ノミノ調査ニ於テモ共ニ男性ハ女性ヨリ多ク起ルヲ認メタリ。

三、咯血ト年齢トノ關係ハ、一般ニ壯年期及ビ成年期ニ多數ナルモ、之レ單ニ患者數ノ多キ爲メノミニ非ラズシテ咯血ヲ起ス率ニ於テモ差違有ルヲ知ルヲ得タリ、即チ二〇歳ヨリ四〇歳未滿ノ者ハ殆ド同率ニテ最高ク、次ハ四〇歳以上ノ高年者ニシテ、二〇歳以上ノ若年者最低位ニ在リ。

四、咯血ト氣象的變化トノ關係ハ斷言シ得ザルモ、季節ニ於テハ春ヨリ初夏ノ候ニ稍ヤ多キガ如シ、然レドモ或ル一定ノ同時刻ニ波濤ノ如ク多數ノ患者ニ咯血ノ襲來アリテ氣象的急變ト咯血トノ直接關係ヲ想起セシムルガ如キハ是ヲ認ムル能ハザリキ。

五、咯血ハ一日中如何ナル時刻ニ多ク起ルモノナリヤノ問題ニ就キテハ 一一二〇例ノ始發咯血發現時刻分類ニ依ルモ共ニ最多ナルハ午後七時頃ニシテ、一晝夜ヲ四區分シ觀察セル結果ニ於テハ午後六時ヨリ同十二時迄ノモノ最モ多クシテ 午前零時ヨリ同六時迄ノモノ之レニ亞ギ午後一時ヨリ同六時迄ノモノハ更ニ少ク、午前六時ヨリ同十二時迄ノモノ最少ナリ、之レヲ午前六時ヨリ午後六時ニ互ル晝夜ノ二大別ニシテ觀察スルニ二ニ對スル三ノ割合ニテ夜間ニ多ク起ルヲ見タリ。

六、初期咯血ノ頻度ハ七三七名ノ調査ニ於テ其ノ二・六%強ニ當レリ。

七、咯血後一、二時間後ヨリノ體溫、脈搏數及ビ呼吸數ノ變化ヲ調査セルニ大部分ハ殆ド變化無ク、約五分ノ一ニ於テ多

少ノ増昇ヲ認め、又少數例ニ於テハ是等諸徴ノ却テ良好ニ轉ゼルヲ認めタリ、睡眠關係モ略々同様ナリキ。而シテ是等咯血例ノ約五分ノ四ハ其後ノ肺結核ノ經過ニ於テ殆ド影響ヲ認めザリキ。

八、咯血後肺結核經過ノ増悪セシ例ニ就キ體溫、脈搏數及ビ呼吸數ノ變化ヲ比較セルニ大多數ニ於テハ何レモ、ソガ増昇セルヲ認めタリ就中呼吸數ノ増加ガ本病ノ増悪ニ最モ多ク關係ヲ有スル事ヲ見タリ。

九、咯血死ノ率ハ全患者例六三八六名ノ一・三%ニ當レリ。此際ノ咯出血量ハ必ズシモ多量ナルモノニ非ズ。

十、咯血發現ノ直前ニ於ケル事項ノ有無及ビ其ノ種類ヨリ誘因動機ニ關シ一〇〇〇例ノ始發咯血ニ就キ身體的運動事項精神的事項及ビ咳嗽其他ノ病的事項等ヲ精査セルニ身體的運動事項ハ極メテ些細ナル事柄迄悉ク算入スルモ全數ノ約三分ノ一ニ於テ之ヲ求メ得タルニ過ギズ、就中身體的運動ニテ少シク強度ナルモノハ甚ダ少數ナリキ。

十一、咯血發現ノ夜間ニ多キ事及ビ咯血直前事項ノ調査ノ結果就中身體的運動事項ノ比較的少數ナリシ事實ハ咯血ノ誘因動機トシテ身體運動ノ常ニ必ズシモ特大ナル意義ヲ有スルモノニ非ザル事ヲ示スモノナリト信ゼシム。但咯血セル患者ノ治療上ニ於ケル安靜ノ價値ヲ云々スル者ニ非ザルハ勿論ナリ。

摺筆ニ臨ミ東京市療養所長田澤博士竝ニ遠藤副所長ノ御懇篤ナル校閲ノ勞ヲ深謝シ、併セテ醫局諸兄及ビ末永學兄ノ御援助ニ對シ謝意ヲ表ス。

文 獻

- 1) 原、肺結核早期診斷及治療學、2) 竹中、結核雜誌、第五卷、第三、四、五號、大正十一年、3) 松田、結核、第一卷、大正十二年、4) G. Schroder, Klin. Woch. Nr. 30, 31, 1924. 5) A. Nannmann, Zeitschrift f. Tuberkulose, 1921. 6) T. Jansson, Beiträge z. Klinik d. Tuberkulose, 1907. 7) S. A. Levinson, Beiträge z. Klinik d. Tuberkulose, 1925. 8) S. Baug, Beiträge z. Klinik d. Tuberkulose 1917. 9) A. Sternberg, Beiträge z. Klinik d. Tuberkulose, 1922. 10) E. L. Haue, Beiträge z. Klinik d. Tuberkulose 1922. 11) Fishberg, Pulmonary Tuberculosis, 1919. 12) Pottinger, Clinical Tuberculosis, 1917. 13) E. Sorger, Handbuch d. Tuberkulose von Brauer, Schröder und Blumentfeld, 1923. 14) Crofton, Milit. Surg. Bd. 50, Nr. 1, 1922. 15) Smith, Lancet Bd. 206, No. 5, 1924. 16) Brandeiser-Roepke, Die Klinik der Tuberkulose, 1920.